

今日も視界良好 代表とインターン編

⑤ 「4年ぶりの社員旅行」 代表取締役 長尾 康行（中小企業診断士）

先日、2泊3日で台湾へ社員旅行に行っていました。コロナ以前は毎年、国内と海外の計2回の社員旅行に行っていたのですが、今回はコロナもありましたので4年ぶりの実施となりました。この数年で事業規模の拡大に舵を切っていましたので総勢15名（3名は諸事情で不参加）の海外旅行となり、私自身は楽しみと責任が半分半分といった心境での旅行でした。台湾が初めて、海外旅行が初めてという社員もいますので、やはりオーソドックスな旅行を心がけました。まず観光地においては九份と中世記念堂の2つは外せませんし、食べ物でいえば鼎泰豊（ディンタイフォン）の小籠包やチャーハンも外せません。今回の旅行はとにかくみんなに喜んでもらうというのが目的でしたので、飛行機やホテルの手配、行程の組み立て、しおり作成まで全て私が担当しました。その結果、全員が楽しんでいただけたと思いますし、トラブルもなく無事に帰国できてホッとしました。私は経営者として会社に利益を残し、その利益の一部分を給与や賞与以外で社員のみんな（私自身も含まれます）が幸せになることに充当することが大事だと思っています。チームビルディングや社風を改善するために社内でも座学やミーティングをすることも大切ですが、組織や会社といってもコミュニケーションや相手への関心、気づき、思いやりなどで人間関係が成り立っていますので、その意味では社員旅行というのは単に楽しむというだけでなくチームワークを良くする取り組みであると言えます。

社員旅行から帰ってからはすぐに来期に向けたビジョン会議を行い、来期の社員旅行の日程も確定しました。社員旅行を通じ、個々人が視野を広げ、様々な気づきを得ながら、良い組織、良い会社へと進んでくれればと思います。



代表取締役 長尾 康行



【左から、中正記念堂・九份・台北101の前】

⑥ 「カナダに行って気づく日本の素晴らしさ」 インターン生 瀧澤 佳樹

先日、一週間ほどカナダへ家族と行ってきました。そこで案内してもらったガイドさんと話して驚いたことがあります。それは、カナダという国は誕生してから約150年と歴史が浅く、一方、日本はなんと約2600年と現存する国で世界一、歴史が長い国ということです。また、海外ではアニメや車、エアコンなど日本の企業が開発したモノを頻繁に目にします。そのたびに私は日本の技術は素晴らしいものだと感じています。これは世界で一番という長い歴史の中で、日本人が作り出した他国に負けない技術だと考えています。過去を遡ると、1989年の時価総額ランキングを見ると、日本が50社中32社ですが、現在は50社中1社で以前に比べて、低下しています。このように、海外に行くことで、なかなか普段考えないことや、他国から見た日本の良さに気づくことができます。また、私は改めて素晴らしい文化・技術を保有している日本が、昔のように再び世界で輝けるように、企業をサポートできるコンサルタント職を通して、今後日本の発展に貢献していきたいと思っています！

⑦ 「食の最適化」 インターン生 伊藤 悦子

蕎麦。私はざる蕎麦がとにかく好きなわけですが、それは低GI食品であり、塩分調整がしやすいからであり、正直、食にそこまで興味がないです。生理的欲求が満たされればそれで充分で、めんどくさく食べないこともしばしば。その結果免疫力は急低下。先月は体を度々壊しました。不健康であることは嫌であるため、最近自分の食生活を見直しています。具体的にはChatGPTを用いて必要な栄養素を算出し、レシピを構築することで、食の最適化を行っています。自分の体重、身長から必要な栄養素を導き、そこから、必要な栄養素をもとに最適なレシピを探し調理をする。精度は分かりませんが、これがとても楽しいです。毎日の楽しみになっています。「冷蔵庫に、鶏肉とごぼうがあるから、これを使用した最適な料理のレシピを教えて」や、「昼に納豆1パックと鴨蕎麦を150g摂取したから、足りない栄養素をもとに最適な晩御飯のレシピを教えて？」など。材料をグラム単位で指定されたレシピが複数提案され、そこから、栄養素について調べながら最適解を探すのはとても楽しく、自身が健康にもなるため、今後も続けていきたいです。

⑤ 「他人は鏡」 インターン生 小甲 智也

私の好きなバガボンドという漫画の1シーンに「他人は自分を映し出す鏡」という名言があります。これは主人公の宮本武蔵が、自身の殺気を相手の殺気と勘違いしたときに老僧から言われた言葉ですが、こう言ったシーンは私たちの日常生活でもたくさんある事例だと思い、強く共感してしまいました。自分自身のちょっとした苛立ちや雑さが相手への不快感を与えてしまい、言い争いをしたりするという事に心当たりがあったので、こういった原因を作っているのは案外自分なのだとすることを頭の片隅に置きながら、穏やかに過ごしたいと思います。

⑥ 「ネコ型ロボット」 インターン生 野稲 大樹

先日、フラッグシップ経営の社員旅行にインターン生である私も同行させていただき、台湾に行っていました。その中で現地のスーパーに立ち寄ったのですが、タイトルにも記しました通り、ロボットが商品を持って店内を巡回しておりました。私が細い通路を歩いている際、反対側からこのロボットが向かってきたのですが、ロボットは私に道を譲ることなく立ちはだかっておりました。この時、昔スーパーで店員として働いていた私は「お客様に道をゆずらないとは何事だ」と少し感じてしまったのですが、それと同時に、この考え方こそが日本人脳なのだと気が付きました。今回の私のような考えを持っている人がいる限り、日本でこのようなロボットが受け入れられるには他国に比べると時間がかかってしまうように感じました。



⑦ 「冬のオアシス」 インターン生 宮川 尚也

11月中頃の現在、近所のスギ薬局ではスティービーワンダーのしっとりしたクリスマスソングが流れ始めた。開放感に振り切ったような近所のスターバックスでは、ジングルベルではない英語のポップな方のクリスマスソングが流れている。もうクリスマスが近い。今年は早かった。毎年毎年、一年が過ぎるスピードが更新されていく。冬と冬のスパンが短い。冬は苦手だが、ホットコーヒーが美味しいのでプラスマイナスでギリギリマイナス。高校生の頃はもっぱら300円以上のコーヒーを買わない主義を徹底していたが、20歳を超えてからはガンガン買う。スタバのコーヒーは、350円くらい。この50円くらいの差が、味・香りを大きく変えるのだ。気づけば、ほとんどの水曜日、帰り道にスタバでコーヒーを飲むのが習慣になっている。このコーヒーがたまらなく美味しい。スタバが冬のオアシスになっている。いつも通り愛想の塊のような笑顔でお姉さんが接客してくれる。「本日のコーヒーは、クリスマスブレンドの濃いめです。」お姉さんが言う。やった。僕は濃いめのコーヒーが好きなので、ラッキーだ。店内で一番柔らかそうな椅子に腰かけて、コーヒーをいただく。美味しい。やっぱりコーヒーは濃いめに限る。いつも以上の幸福感がある。しかし、半分ほど飲み終えたころ気づく。僕は「クリスマスブレンドの普通」を知らない。得した気分だ。「濃いめ」の一単語が多いだけで喜びが増した。たった一つの情報を伝えるかどうかで相手の幸福度を増加させることができる。しかし、一方で「薄め」が好きな人はどう受け取るだろう。「濃い目」は、少し余計な一言になるだろう。コミュニケーションとは難しい。相手の状況、相手の考え、相手の好みに合わせたコミュニケーションを心がけたいものだ。相手の表情から好みが変わったら楽なのになあ。ただ、コーヒーの濃いめが好きそうな顔ってどんな顔だろうか。

⑧ 「運転免許」 インターン生 平手 陸翔

先日、ついに自動車学校に入校いたしました。もともと両親ともに免許を持っていることもあり、運転できるようになりたいという気持ちは持っており、学業や就職活動が忙しくなる前の今がラストチャンスだと思い、入校しました。

また一つ大人の階段を上っていると感じる今日この頃ですが、教習を受ける中で運転することは簡単なことではないなと思わされることが多々あります。例えば、教習所内のコースにはたくさんのカーブがあるのですが、そのカーブによって推奨されている速度が違うこと。これは慣れている人にはどうってことない課題であるかもしれませんが、しかし、ちょっと速いと注意されてスピードを落とすと、また別のカーブではもう少しブレーキは少なめでとの指摘を受けるの繰り返しで、一向に適切な速度感覚が見つかりません。他にもコース内には指示速度と呼ばれる〇〇キロ以上出さなければならないと指定されるゾーンがあります。これも難しいポイントで、まだまだ乗り始めて一か月も経過していないこともあり、速度を出すことへの恐怖心が強く、なかなか緊張してしまいます。この緊張はこの地点では上手く作用するのですが、クリアできたことにホッとしてしまい、次の曲がり角を曲がる前の進路変更を失念してしまうなどの前後のミスを誘発してしまいます。この2点についても教習を重ねながら徐々に克服しつつありますが、まだ教習所内のコースしか走行したことがありません。仮免許を取得した先には実際の公道を走行する教習が待ち受けています。改めて考えると、運転というのは「大きくて重い鉄の塊を動力を用いて速い速度で動かす」というとても危険な行為なのですから、厳しい課題があってしかるべきで、このような課題を乗り越えて、世の中の方々は車を運転していらっしゃると思うと、本当に皆さんのことを尊敬します。これから与えられる課題をクリアして、大人の仲間入りができるように頑張ります。



発行元：株式会社フラッグシップ経営 経営革新等認定支援機関

大阪 本社：〒541-0043 大阪市中央区高麗橋3丁目2-7 ORIX高麗橋ビル5階

和歌山支社：〒640-8392 和歌山県和歌山市中之島1518 中之島801ビル12階

TEL：0120-34-8776

FAX：06-7635-8214

MAIL：info@flagship-keiei.co.jp URL：www.flagship-keiei.co.jp



➤「ノリと勢いで決め、腹を括る」 マネージャー 木戸 貴也 (中小企業診断士)

周りからは論理的に考えて、合理的な判断で意思決定しているように勘違いされることが多いのですが、直感で判断していることがほとんどです。特に目標設定については、ノリと勢いで決めてしまう傾向にあります。例えば、売上目標についても個人的毎や部署毎の目標を集計しても会社全体では不足していることはよくあります。全体が不足していることがわかった上で自分の目標、部署の目標を上乗せできるのかどうか。初めから低くない目標を立てている上での上乗せであり、それがどれだけ大変なことか想像できればできるほど気持ちは重くなりがちです。この気持ちを吹っ切り、テンションを上げられる人は、1年後、上乗せした目標を上回る成果をあげている様子がイメージできるものです。ノリと勢いで決め、腹を括って取り組めば、結果的に達成できていなかったとしても、当初思っていた以上の成果が出ているものです。



➤「振り返り」 経理・総務 松野 あやか

2023 年も残り 1 ヶ月、今年も本当にあつという間でした。この 1 年を振り返ってみると性格が変わったと思います。今までは、社内で気になったことを先輩や後輩、インターン生に伝える際は、細かい人で何か思われるかもしれないと気にして言えない時がございました。

しかし、今年は、もちろん代表に、～が気になったため、声をかけてもいいか・私は～のように感じますが会社としてはいかがでしょうかと相談してからですが、会社の求める人物像や気遣いについて、多少言いにくいことでも相手に伝えることができたと思っております。相手に何かを伝えたり、指摘したりする際は、「良いところも探す」、「自分のものさしで相手を測らない」、「普通に考えたら～」、「常識的に～」、「偉そうに言わない」、ことを常に意識しております。ですが、まだまだ課題はあります。(本当に相手が理解できているのか、納得しているのか、次から改善して頑張ろうと思わせることができたのか等) 人としてまだまだ未熟者で心が狭いと痛感した 1 年でした。来年は、この悔しさをバネに、人として成長できるよう、奮闘していこうと思います。



➤「2023 年を振り返り・・・」 ビジネスアナリスト 伊藤 侑加

2023 年も残り約 4 週間となりました。社会人になってから 1 年過ぎるのがあつという間に感じられますが、今年は暖冬のせいもあるのか、まもなく 2023 年が終わるということが本当に信じられないです。

私は毎年 1 月に仕事・プライベートともに 5 個ずつ目標を立てるのですが、達成率は 70% 程度でした。達成出来た目標の 1 つは、毎月 1 回大阪以外の他府県に赴くことです。

(※ 1 回訪れた場所はノーカウントとする。) 些細な事ですが、意志がないと難しい月もありました。

また、目標設定があいまいで、達成出来たかを見極めることが難しいものもありました。来年は目標を設定する際には、あわせて、目標達成のための数値化した行動計画を設定する必要があるとも改めて感じました。(例えば、「英語力を向上させる」ではなく、「TOEIC750 点を目指すために、毎日 10 問参考書の問題を解く」など) 残り僅かではありますが、今からでも実現出来そうなことは 1 つでも実行に移し、少しでも目標達成できる 1 年にしたいと思います。



➤「幹事から学べる事」 ビジネスアナリスト 古川 悠樹



先日、大学時代の友人の結婚式に参加し、2 次会の幹事を務めさせて頂きました。コロナ明けということもあって、出席者は 60 人以上を超える規模でした。2 次会の幹事は 2 度目であった為、凡その流れや要領は分かっていたつもりでしたが、当日の機材トラブルやドリンクバーの混雑、盛り上がった故に進行が遅れたりなど、振り返ると反省点が多くありました。それでも新郎新婦からは、「楽しい会を作ってくれてありがとう。お願いして本当に良かった。」その言葉を聞けて、大変ではあったが幹事を受けて本当に良かったと思いました。結婚式の幹事に問わず、飲み会や社内イベントなど幹事をする場面は多々あるかと思います。そうした中で、私は積極的に手を挙げ引き受け、①段取り②気配り③即興力を学んできました。その他にも自分を知ってもらえるなど幹事を引き受けるメリットはたくさんあるかと思います。年末年始が近づいてきておりますので、皆様この機会に幹事をしてみても如何でしょうか？(私は既に 3 件幹事をする予定がありますが、体力が持つか不安です……)



発行元：株式会社フラッグシップ経営 経営革新等認定支援機関

大阪本社 : 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 3 丁目 2-7 ORIX 高麗橋ビル 5 階
和歌山支店 : 〒640-8392 和歌山県和歌山市中之島 1 5 1 8 中之島 8 0 1 ビル 1 2 階
TEL : 0120-34-8776 FAX : 06-7635-8214
MAIL : info@flagship-keiei.co.jp URL : www.flagship-keiei.co.jp



⑤ 「脱炭素経営やGXを実現するためには」ビジネスアナリスト 秋定 皇輝

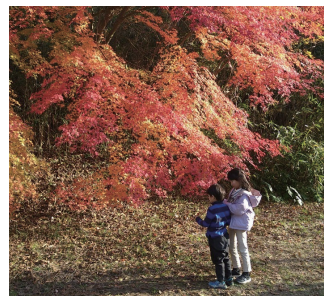


先日、大阪で開催されていた脱炭素経営 EXPO に弊社でご支援させていただいた事業者様が出展されていたので、インターン生と共に伺いさせていただきました。展示会自体は国内外の企業が多く出展しており、国内の企業はもちろん中国系の企業の出展が多かった印象でした。昨今 SDGs や GX が推し進められているものの、大手企業での取り組みが多く中小企業ではまだまだ進んでいないのが現状かと思います。展示会の中では「中小企業こそ SDGs を」と記載があり、中小企業のファイナンスに対して新たな支援制度として、主に銀行を通じて行われる「サステナビリティ・リンク・ローン」という、企業がサステナビリティに取り組む上で、中長年にクリアすべき課題と目標数値を設定し、その達成状況によって金融機関からの金利が変動する、という取り組みが紹介されていたりしました。短時間の滞在でしたが、提供する商品自体が非常に興味深い内容の展示をされている企業様も多く、これからのご支援で活用できることもあるかと思うので、他の企業の取組内容や国の施策について更に調べてみようと思います。

⑥ 「緊急ではない重要なこと」ビジネスアナリスト 日野 慎太郎



先月、無事、中小企業診断士の2次試験が終わり、プライベートの時間が少し落ち着きました。試験結果は年明けに発表ですので、それまでは一旦、スロウダウンして、家族で紅葉を見に行ったり、公園に行って一日中遊んだり、子供の気が済むまでトランプをしたりと、これまで協力してもらっていた家族との時間を多く過しています。子供が喜んでる姿を見て、非常に心が和むと共に、色々和我慢させてしまっていたんだと申し訳ない気持ちにもなりました。代表の長尾もよく言う言葉で、「緊急ではない重要なことに意識することが大事」があります。ここ数力月は、試験勉強という「緊急で重要なこと」に注力し過ぎていた分、これからは妻、子供、自分の親、学生時代の友人との時間など「緊急でない重要なこと」を大事にしていこうと思います。これから年末年始になりますが、皆様も、「緊急ではない重要なこと」を意識して、普段、なかなか会えていない大切な方と久しぶりに会われてはいかがでしょうか。写真は家族で紅葉を見に行った際に、子供がもみじの綺麗さに感動していた時の写真です。とても可愛かったです！



⑦ 「高校時代の友人」営業事務 吉川 鈴夏

先日、母校である高校の閉校イベントに参加してきました。私が3年間通った高校は、来年から他3校と統合し新しい高校へと生まれ変わります。そんな高校の最後の在校生が開催した今回のイベントで、懐かしい先生方や友人と再会すると一気に高校生に戻った感覚になりました。その中で現在、教師として働いている友人にも再会しました。その友人は特段、勉強ができるわけではなかったですが(笑)学生の頃から周りを巻き込んで引っ張っていく力を持っていて、常にクラスの中心にいるような人物でした。当時から担任に「お前は教師を目指せ」と何度も口説かれていたのを覚えています。そんな友人が本当に高校の先生になり、担任だった先生と一緒に働いている姿をみて少し感動してしまいました。イベントの最後は高校の伝統芸であった手拍子で校歌斉唱という独特な文化で締めくくり、終了しました。母校が無くなってしまふ寂しさはありますが、久しぶりに会う人々と再会できたことや、高校時代の懐かしい映像を振り返ることができて、とても良い時間でした。私も先生や友人を感動させられるよう、次に再会するまで尽力しようと刺激を受けた一日でした。



⑧ 「毎年の冬の楽しみ」営業事務 造田 朋夏

ハロウィンが終わり、徐々にクリスマスの雰囲気を感じるようになってきました。街中やお店を見ると年々クリスマスの準備が早まっているなあと感じます。つい先日まで暑い日々が続いていたはずなのに、ここ数日で急に冬を感じる日も多くなりました。私は寒さが苦手で、最近の朝晩の寒くなりかけた外に出るだけでも気が引けてしまうのですが、そんな中でも冬のイルミネーションは毎年楽しみにしています。今年も御堂筋のイルミネーションの点灯が始まっており、帰宅時にイルミネーションを見ることが毎日の楽しみです。冬になると当たり前のように始まるイルミネーションですが、日本で始まったのは明治時代で100年以上も続いているそうです。100年も続いていることや、イルミネーションを実施する場所が増えたことを考えると、年々街中がキラキラと豪華になっていくのも納得できます。いつもは何かのついでにイルミネーションを見に行くことが多いですが、今年は今までに行ったことのない場所にも訪れるなど冬の楽しみを見つけたいです。



⑨ 「事前準備の大切さ」営業事務 中村 菜摘

コロナ禍から夫とキャンプを始めて2年が経ちます。これまでに14泊し、写真を見返すと様々な思い出が蘇ります。初めてのキャンプをする前に、タープを張る練習を行いました。お肉屋さんで少しいいお肉を買い、デイキャンプができる広場に行きました。しかし、予想通りタープがうまく張れず、最終的にはハンマーまで壊れてしまいました。その日はとても暑くお腹が空いていたこともあり、むちゃくちゃ陰湿なムードに(笑)。やっとのことでタープが張れ、お肉を食べるころには二人とも機嫌が良くなり、「事前に練習しにきてよかったね。来週のキャンプ楽しみ！」と、陰湿なムードも一変しました。初めてのキャンプ当日は、練習の甲斐あってスムーズに設営ができ、やりたかったことを全部実現することができました。仕事もそうですが何事も事前準備が大切だなと思った出来事でした。(写真は記念すべきだるんの初張りタープです。)



今日も視界良好 和歌山オフィス編

⑤ 「師が走る」 ビジネスアナリスト 杉本 貴弘（中小企業診断士）

12月を師走と呼びますが、もとは旧暦の12月に師（僧）が仏事を行うために東西に忙しく走り回ることから「師馳せ月」といったことを語源としている説があるそうです。僧ではありませんが、学校の先生や塾の講師をしている友人たちも、年明けのセンター試験（現：大学入試共通テスト）から始まる受験シーズンの到来に向けて、この時期は慌ただしく走り回っております。自分達の学生時代も先生方は生徒のために走り回っていたことでしょう。先生はいつの時代も大変です。頭が上がりません。

12月ということで自身の一年を振り返ってみると、今年は魔女の一撃（ギックリ腰）から始まり、体力不足を大いに感じる年となりました。思えばギックリ腰が前厄…変化の兆しだったのかもしれませんが。

来年の本厄を思うと、今から恐怖を感じております…。12月是一年の締めくくりの月です。年末にかけて忙しくも、どこか寂しさを感じる時期ですが、やり残しが無いように残りの1か月を頑張っていきましょう。



⑥ 「過ちて改めざる是を過ちと謂う」 ビジネスアナリスト 橋本 大治

弊社では毎朝、朝礼の際に担当者より「気づきの一言」を発表しております。日々の生活や業務から気付いたことや学びなどを共有し、多様な視点や広い視野を育んでおります。例えば先日訪れた飲食店の接客が良かったので食事をしていて気持ちよかったという経験談を交えながら、気遣い気配りの大切さを再認識しました等です。さて、今回は橋本が一人暮らしをはじめてから何度も繰り返している過ちについてご紹介させていただきます。それは自炊をする際に保存せず使いきろうとしてしまうことです。和歌山を代表するスーパー、エバグリーンに買い物に行くのですが、貧乏根性から①グラム単価が最低になるように（まとめて）購入してしまいます。その後、家に帰ると腐らせてしまうことを恐れて②全て調理してしまいます。

しかし、一人暮らし用の③鍋が小さく1度では調理出来ません。その結果、仕事終わりに3度ほど鍋を炊き、1時間以上かかるという過ちを数回起こしております。「過ちて改めざる是を過ちと謂う」孔子先生のおっしゃる通り、毎度毎度、自分の愚かさに呆れます。失敗は誰も行うものであり、仕事でも失敗すること自体が問題ではありません。失敗から学ばないことが問題なのです。何故、失敗したのか分析し、適切に対応すれば必ず改善されます。橋本の場合、①適量というものがあるのでまとめて買わない（対策）、②ラップなどで保存する（対策）、③大きい鍋を買う（対策）、④1つの食材から複数の料理を作ってみる（活用）。愚かな橋本の行為も改善のモデルケースと仮定すると色んな解決策や対応策が出てきます。本件の真因は①の買いすぎですがいきなり辿りつかずとも徐々に気付く改善があっても良いと思います。いきなり正解を求めずPDCAを回した結果、生まれる④等もあるかもしれません。皆さんもミスや問題が発生してしまった際は立ち止まって成長の機会と捉え、意見を出し合いながら考えてみてはいかがでしょうか。



⑦ 「和歌山 NEWS 和歌山支店社員紹介 ～ part 1 ～」

【和歌山 NEWS】では皆様により和歌山支店に親しみを持っていただけるよう、パーソナルな内容や和歌山での発見等、色々紹介して参ります。 前回のニュースレターでは和歌山の静かな仲間（観葉植物）をご紹介しましたが今回からは社員をご紹介します！

和歌山社員 : No.1
 名前 : 杉本 貴弘（スギモト タカヒロ）
 出身 : 和歌山県
 年齢 : 40歳
 誕生日 : 10月28日（さそり座）
 趣味 : スポーツ観戦、旅行、カラオケ

好きな食べ物 : ①レストランフライヤのタンシチュー（和歌山県和歌山市広瀬中ノ丁1丁目13）

②南国飯店の焼きめし（和歌山県和歌山市手平1丁目1-5）

好きな音楽 : ユーロビート

皆様に一言 : 和歌山から、北は北海道、南は九州・沖縄まで全国の皆様のご支援をさせていただきます。よろしくお願いたします！

